

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2010年10－12月）の 概 要

調査期間 平成23年1月5日～1月19日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率28社（回答率 93.3%）
内訳：建設業4社、製造業5社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 10.7$ （前期調査 $\Delta 19.2$ ）とマイナス幅が縮小した一方、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 15.4$ ）とマイナス幅が拡大しています。来期業況見通しDIは、今期比で $\Delta 40.7$ （前期調査 $\Delta 25.9$ ）とマイナス幅が拡大しています。消費を喚起してきたエコポイント制度も今年3月で期限を迎えることから、卸売業や小売業では特にその反動による売上の低迷を懸念しています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 14.8$ （前期調査 $\Delta 29.6$ ）とマイナス幅が縮小した一方、前年同期比では $\Delta 35.7$ （前期調査 $\Delta 32.1$ ）とマイナス幅が僅かに拡大しています。来期売上見通しDIは今期比で $\Delta 42.3$ （前期調査 $\Delta 14.8$ ）とマイナス幅が大きく拡大しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

・今期業況DIが、前期比で0.0（前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が縮小しましたが、前年同期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と変化なしとなっています。また、今期売上DIは前期比で0.0（前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が大きく縮小した一方、前年同期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と変化なしとなっています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が拡大していますが、売上見通し DI は $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と横ばい推移しています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で 20.0 （前期調査 $\Delta 16.7$ ）、前年同期比では 20.0 （前期調査 $\Delta 16.7$ ）とマイナスから一転プラスに転じました。また、売上 DI でも前期比で 20.0 （前期調査 $\Delta 16.7$ ）、前年同期比では 0.0 （前期調査 $\Delta 16.7$ ）とプラスに転じ、期を経るごとに低迷傾向にあった業況と売上に僅かながら回復が見られます。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で 0.0 （前期調査 $\Delta 16.7$ ）とマイナス幅を縮小させたものの、売上見通し DI では今期比で $\Delta 20.0$ （前期調査 16.7 ）と大幅減少を予測しています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で 0.0 （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、前年同期比でも 0.0 （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅を大きく縮小させました。売上 DI では、前期比で $\Delta 100.0$ （ $\Delta 100.0$ ）と変化はありませんでしたが、前年同期比では 0.0 （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅を大きく縮小しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と変化はありませんでしたが、売上見通し DI では今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 0.0 ）とマイナス幅を拡大するなど、需要の停滞や受注の減少による業況の悪化を懸念しています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 44.4$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が拡大、前年同期比でも $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 12.5$ ）とマイナス幅が大幅に拡大しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）、前年同期比では $\Delta 77.8$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）とマイナス幅が拡大しています。恒常的な需要の減少に加え、近年にない豪雪の影響もあって売上が減少しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 44.4$ ）、売上見通し DI では $\Delta 42.9$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅がやや縮小しています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で0.0（前期調査 0.0）と変化はなく、前年同期比では0.0（前期調査 14.3）とプラス幅が縮小しています。売上 DI は前期比で12.5（前期調査△25.0）とプラスに転じ、前年同期比でも△12.5（前期調査△25.0）とマイナス幅が縮小しています。厳しい経営環境のなかにあって、僅かではあるものの改善の兆しが伺えます。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△37.5（前期調査 14.3）、売上見通し DI でも今期比で△50.0（前期調査 12.5）と大きくマイナスに転じています。価格競争による収益の減少などにより、今後さらに体力差が表面化してくる懸念があります。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|---|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は21.9%（前期調査 24.1%）で、「機械・備品」「付帯施設」「OA機器」への投資が同率で並んでいます。 |
| 建設業 | 実施割合が50.0%で、「機械・備品」「付帯施設」「OA機器」が同率で並んでいます。 |
| 製造業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |
| 卸売業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |
| 小売業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |
| サービス業 | 実施割合が40.0%で、「建物」「機械・備品」「付帯施設」「OA機器」が同率で並んでいます。 |

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は22.2%（前期調査0.0%）で、「機械・備品」「付帯施設」への投資が同率で並んでいます。
建設業	設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
製造業	設備投資を計画している割合が60.0%で、「機械・備品」「付帯施設」「OA機器」が同率で並んでいます。
卸売業	設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
小売業	設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
サービス業	設備投資を計画している割合が37.5%で、「建物」「機械・備品」「付帯施設」が同率で並んでいます。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」が56.0%と、半数を超える割合です。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」と「新規参入業者の増加」で、50.0%で同率となっています。
製造業	第1位が「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で40.0%となっています。
卸売業	第1位が「需要の停滞、受注減少」と「商品（製品）在庫の過剰」で、50.0%で同率となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で87.5%と8割を超えています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で50.0%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。